

基本構想での考え方

基本構想 第3章 （4）円滑な事業の実施

②スムーズな施設更新ができるように、建築計画や移転順序等を工夫します

建物の配置や機能移転の順序等を工夫することで、事業期間中も必要なサービスの提供を継続させるとともに、効率的な事業推進ができるように配慮します。

建築計画で明らかとなった課題

モデルプランでは中央福祉センターを残しながら建築する前提でしたが、以下の課題が発生しました。

①設計の自由度の低さ

- ・ イチョウの木の保全、防火水槽の移築、2F児童館への外部出入口の確保（デッキ等の設置）といった、事業実施上の与条件が明らかになってきたことで、前提を守る設計とすると若干窮屈となっている。

②施工上の問題

- ・ 敷地の近隣に資材置き場にできる空地がなく、敷地内に資材置き場を確保できなければ工事の施工性が極端に悪化する⇒工事コストや工事期間の増大を招く原因になる。

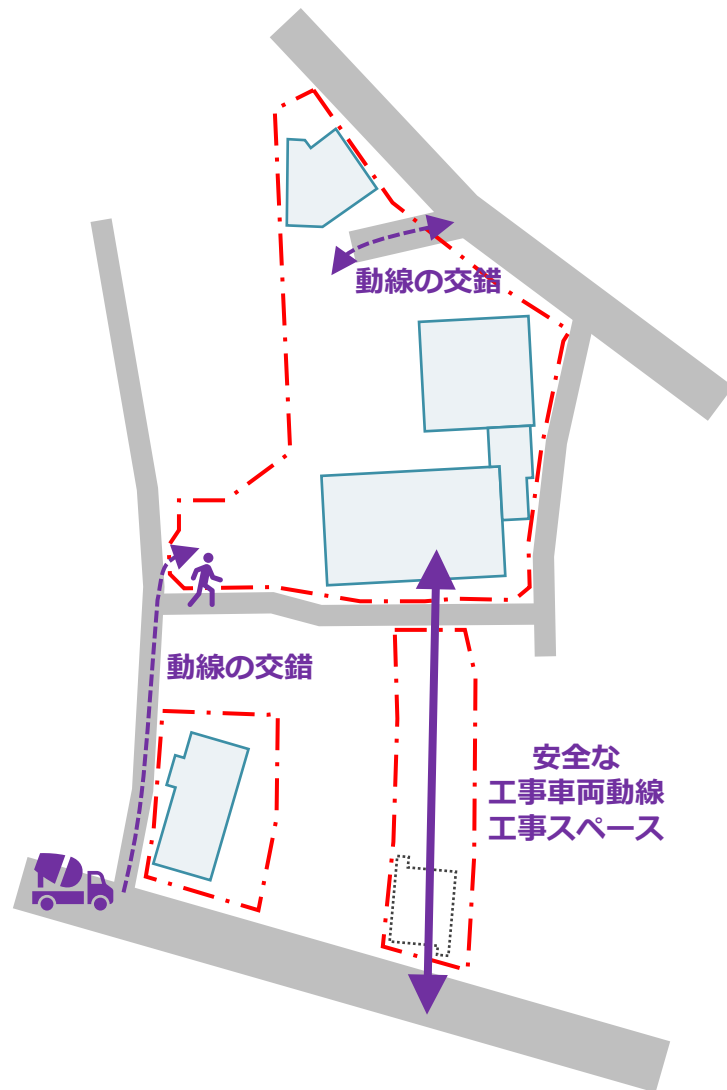
③工事期間中の既存施設利用の問題

- ・ 中央福祉センターを残しながら工事を行うと、敷地北側から工事車両が出入りすることとなり、児童館利用者のための安全な空間の確保が難しくなる。
- ・ 工事を行いながら中央福祉センターを公民館の代替施設等として利用するにあたり、工事の騒音や振動により利用に支障の出る可能性がある。

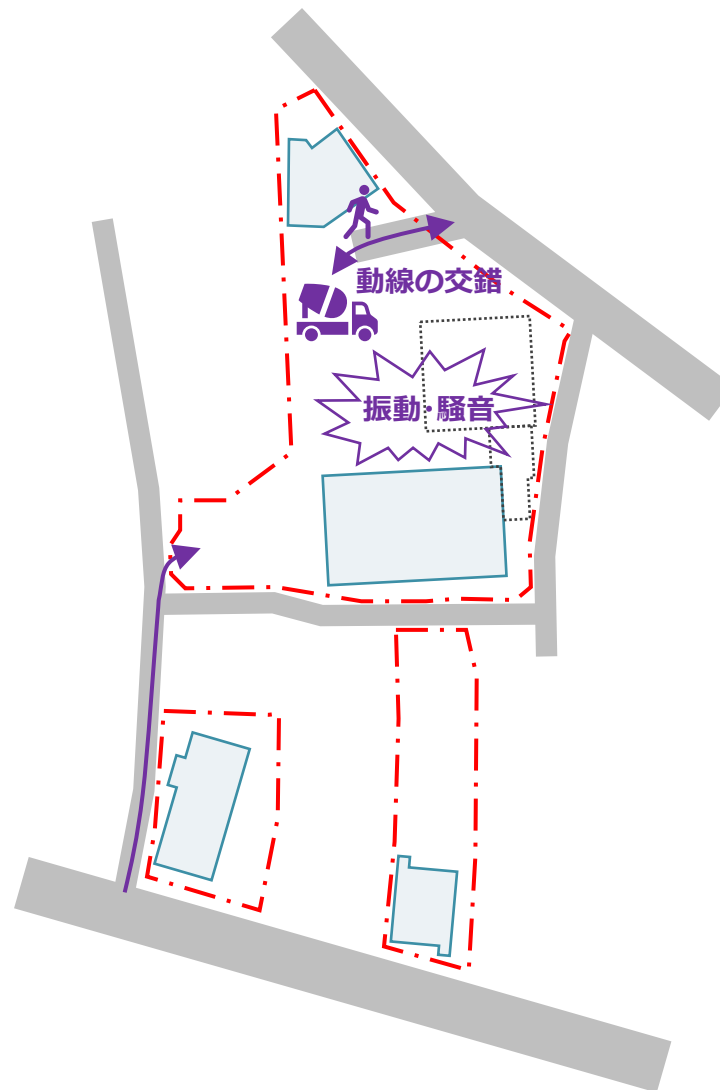
ローリング（建替え）計画について

ローリング計画における検討事項（例）

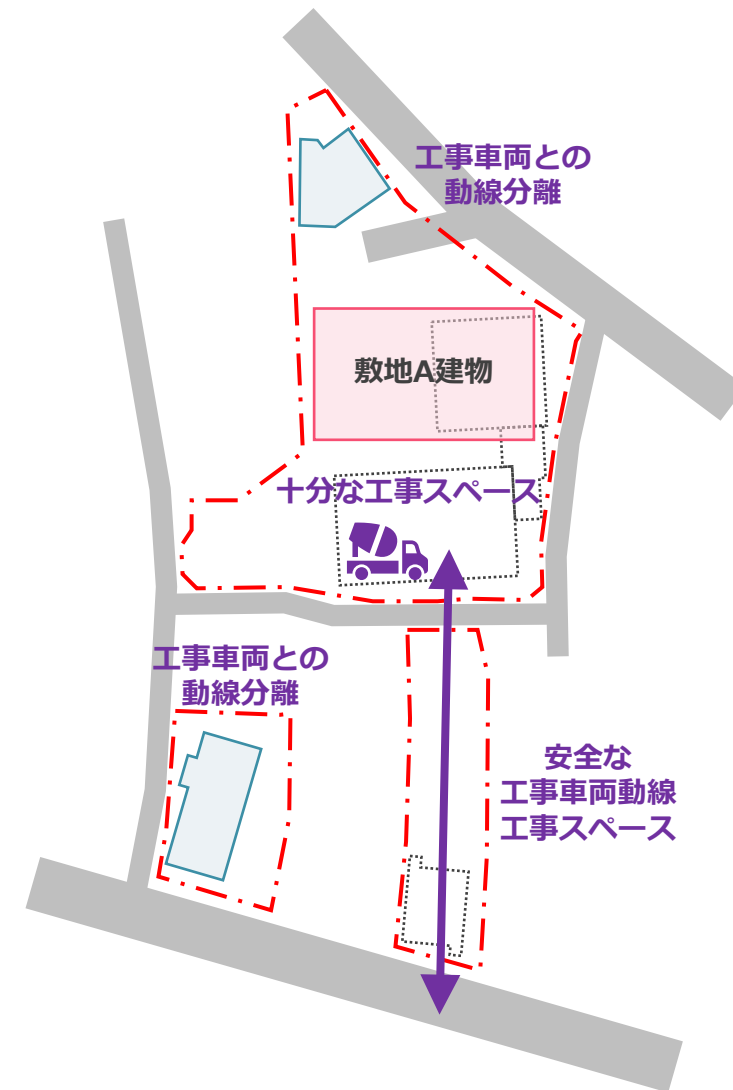
日野宿交流館を先行解体して敷地Cを工事車両動線等として利用することで、安全かつ円滑に工事を進められます。



中央福祉センターや児童館を残置して整備を進める場合、歩行者と工事車両の動線の交錯や振動・騒音の影響が想定されます。



敷地A及び敷地Cの建物を同時に解体することで、敷地Aでの工事を安全かつ円滑に進められるため、事業期間の短縮が見込まれます。



ローリング（建替え）計画について

ローリング（建替え）計画について

【考え方】

- ・ 敷地Aの施設（公民館・児童館・福祉センター）については、工事期間中に同等のサービスを代替で確保することを大前提として、先行解体の可能性を検討する。
- ・ 敷地Cの日野宿交流館について、先行解体の可能性を検討する。
- ・ 代替サービスの確保先については、利用団体等との対話を継続して決定する。

【敷地Aの建物を先行解体する理由】

- ・ 敷地Aの制約条件を少なくし、設計の自由度を高めることで、より高質な施設とすることが期待できるため。
- ・ 利用者の安全の問題や騒音の問題を解消（発生させない）できるため。
- ・ 敷地A内に十分な重機類の設置スペースや工事ヤードを確保することで、工期短縮やコスト縮減を期待できるため。

【敷地Cの日野宿交流館を先行解体する理由】

- ・ 工事車両を甲州街道から直接敷地Aに入れることができ、日野第一中側の前面道路の安全性を確保できるため。
- ・ 一部を工事ヤードとして活用することで、工期短縮やコスト縮減を期待できるため。

代替サービスの確保について

- ・ 日野本町地区内での代替施設の確保
- ・ 日野本町地区周辺地区での代替施設の確保
- ・ 仮設施設の整備
等が考えられます。

⇒引き続き利用団体等との対話を行います。